



# ひるば



Vol. 377  
社会医療法人近森会

# 12

www.chikamori.com ● 高知市大川筋一丁目 1-16 tel. 088-822-5231  
発行 ● 2017年 11月 25日 発行者 ● 近森正康 / 事務局 ● 寺田文彦

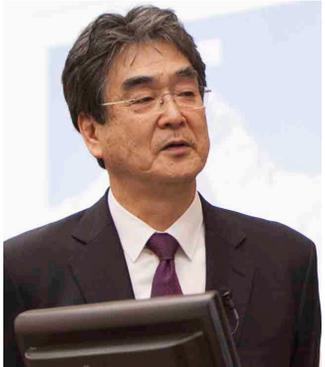
|                      |       |   |    |
|----------------------|-------|---|----|
| VHJ 研修医交流会           | 行元志門  | 4 | 目次 |
| 脳卒中の下肢装具療法講演会報告      | 和田恵美子 | 6 |    |
| 「緩和ケアイベント」を開催        | 田中洋輔  | 6 |    |
| VHJ 研究会第 28 回職員交流研修会 | 山本詩帆  | 8 |    |
| 近森病院クリニカルパス大会        | 高松 正宏 | 9 |    |

## 近森病院 第 158 回地域医療講演会報告

### — 岡山大学名誉教授（前学長） 森田潔先生をお招きして —

▼講師の岡山大学森田潔名誉教授

▼座長の高知大学脇口宏学長



近森病院麻酔科部長 末盛 智彦



11月7日に、岡山大学前学長の森田潔先生を講師として、高知大学学長の脇口宏先生を座長としてお招きし、近森病院第158回地域医療講演会が開催されました。

森田先生は岡山大学医学部麻酔・蘇生学講座教授、日本麻酔科学会理事長を務められた、私達麻酔科医にとってはレジェンドのような存在です。森田先生のご活動は麻酔分野のみに留まらず、2005年には岡山大学病院病院長、2011年には岡山大学学長を務めています。今回は、「地域の大学が果たすべき役割と医療」という演題で、森田先生が学長時代に為された数々の改革、取り組みについて講演を賜りました。

森田先生は地方大学である岡山大学のブランド力を上げるために様々な改革を為されます。「大学と都市・地域

が連携した新たな美しい学都の創設」をテーマにキャンパスの整備をされ、岡山大学は卒業生が訪れても目を疑うほど美しく生まれ変わりました。また、学期のクォーター制、講義時間60分制の導入を行われ国際化への足掛かりとされました。これらの改革により岡山大学は文部科学省からスーパーグローバル大学に認定されました。

また、地域医療改革の目玉として岡山大学メディカルセンター（OUMC）構想を立ち上げられます。岡山市は中心部に複数の総合病院があり、過当競争が起こりつつあります。また、今後の人口減少を考えると医療体制の再編は急務です。

OUMCは岡山大学病院を中核として、市内の六つの総合病院を同一のガバナンスのもとに再編し、日本一の規模と質を持った医療事業体を創出する

という、スケールの大きい構想です。実現のためには、大学病院を大学法人から切り離し別法人化すること、医療法の改正などが必要でしたが、森田先生はこれらの難題をクリアされ、OUMCの実現に向かって進まれています。

座長の脇口先生からは岡山大学の構想についてのみならず、高知県の現状についても言及され、改めて高知県の地域医療について考えさせられる機会となりました。

高知県においても高齢化、人口減少、病院間連携は重要課題です。全国に先駆けて地域医療改革を進めておられる森田先生には様々な質問が寄せられました。個人的には、大きな目標に向かって邁進を続けられる先生の姿に改めて教えられる思いでした。

すえもり ともひこ



## 炎症性腸疾患における生物学的製剤について

近森病院消化器内科

部長 高松 正宏

炎症性腸疾患（IBD）とは、消化管に原因不明の炎症を起こし、再燃と寛解を繰り返す慢性疾患の総称で、主に潰瘍性大腸炎とクローン病がこれにあたります。現在両疾患合わせて20万人を超え（特定疾患医療受給者証交付件数による）、消化器内科医としては少なからず遭遇する疾患となっています。

IBDの治療は、以前は5-ASA製剤とステロイド程度しかなく、ステロイド

の副作用に悩まされることが多々ありました。その後、5-ASA製剤の改良、免疫調整薬、血球成分除去療法などが登場し治療の幅が広がってきました。中でも、2002年に抗TNF- $\alpha$ 抗体製剤（インフリキシマブ）がクローン病の治療薬として承認されてきたのを皮切りに、生物学的製剤による治療が可能になり、IBD患者さんのQOL（生活の質）も目覚ましく向上してきました。私の患者さんも、瘻孔のある方、ステロイド依存の方など、その恩恵を受けることがしばしばありました。

生物学的製剤は、その後アダリムマ

ブが承認され、本年には潰瘍性大腸炎に対しゴリムマブ、クローン病に対しウステキマブが承認されました。来年にはさらに新しい製剤が登場してくる予定で、その選択肢が増えることとなります。

IBDの患者さんは同じ疾患でも症状や治療効果の現れ方に個人差がありますので、生物学的製剤のみならず、従来の治療法も含め、どの製剤をどのように使用することが患者さんにとって最も良いのか、これからさらに議論が深まるものと思われます。

たかまつ まさひろ

## 12月の歳時記

### 椿

近森病院救命救急病棟  
看護師 恒石 亜侑美



椿の花言葉は誇りです。椿を見ると幼き日に母におぶられ花の名前を覚えてもらったことを思い出します。私の実家には椿の木があり、毎年真っ赤な花が咲きます。花は形には残りませんが、学校の帰りにのんだ花の蜜やプレゼントの花束など心がほっこりする思い出ばかりです。もうすぐ思春期の息子も椿のような凛とした誇りと優しい思い出で溢れるよう願うばかりです。

つねいし あゆみ



絵・息子さん

## 精神科 50周年に寄せて 第3回

### 医者はしゃしゃり出るな

近森病院精神科 田村 雅一

私はいつも若い医師らに言うことがあります。「医師はしゃしゃり出るな」と。

医師が前面に出ると、コメディカルスタッフは萎縮してしまいます。優秀なスタッフが前に出られるよう、当時は若かった明神現センター長を始め、皆に言ってきました。むしろ、私はそれしか言ってこなかったかもしれません。これは今も息づいているモットーです。

私は常々医療法について思うところがあります。それは全てにおいて「医師が責任を負う」という点です。責任逃れをしているわけではありません。言いたいことは、コメディカルスタッフの診療行為に「医師の指示のもと」という表現がついて回ることで、これは本当の意味で「コメディカルスタッフが責任をもって治療を行う事」にならな



いのでは、という点です。

極論、指導方針も治療行為も医師の指示の元で行わないほうがいい。彼らは医療のプロフェッショナルです。プロが各々の責任で他職種と意見交換をしながら治療を行うこと、それぞれがチーム医療だと考えています。ですが、今以て実現するには至らない現状があります。

たむら まさかず

## 笑顔の力を

四国管財株式会社 株式会社スマサポ  
お客様係 & ディレクター 筒井潤さん



いつも大変お世話になっております。当社は昭和37年に設立し、今年で55年を迎えるビル総合管理業務と医療機関への人的提供サービスを行っている会社です。現在近森会様で受託させて頂いている業務をご紹介します。

### ■ アテンダント業務

看護師や看護補助スタッフの皆さんのサポート役として、患者さんの身の回りのお世話をお手伝いする仕事です。近森会のために生まれた業務です。

### ■ 院内託児所

保護者の皆さまが業務に支障をきたすことなく安心してお仕事に専念できるよう、お子さんをお預かりしていま

す。手の行き届いた安心・安全な託児所を目指しています。

### ■ 外来警備業務

近森病院本館正面玄関で安全確保のお仕事をしています。業務を遂行するにあたり、マニュアル通りに行ってもクレームになりやすい部門です。接遇面を重視した教育を十分に行っています。

### ■ クラーク業務

カルテや書類の記入など事務処理を専門にサポートします。看護師の方々が医療行為に専念できるように生まれた業務です。

### ■ クリーンキーパー業務

スタッフの「笑顔と挨拶の実践」を重点に、施設はもちろん関わる

方の心まで磨けるよう、キレイにすることに誇りと自信を持って働いています。

### ■ 施設管理業務

院内設備の「お助けマン！」です。技術はあっても愛想が無い・・・ということが無いように弊社ではお客さまとの会話も技術と考え、気持ちの良い対応を心がけています。

### ■ 夜間受付業務

近森会の夜間の重要なポジションとして外来受付・救急対応・院内対応などを行っています。患者さんやご家族、そしてご利用されるすべての方の夜間専用窓口として業務を行っています。

(50音順)

つつい じゅん



看護部

## キラリと光る看護



## 多職種協働のオルソ病床コントロール

近森オルソリハビリテーション病院  
シニア看護師長 山崎 成美

当院は平成19年10月に開院し、今年で10年を迎えました。開院当初より看護が中心となり、病床会議を行っています。

病床会議では、資源としての病床を多くの患者さんにいかに効率的に有効利用してもらえるかを考えながら、管理栄養士、ソーシャルワーカーも参加しその日の情報を共有しながら、コントロールをしています。

共通のツールとして、月間での入院院と稼働率、入院患者名、空床数など、必要な内容が一覧でき各部署でタイムリーに共有できるような独自の「入院表」を作成して、それらを基にしてベッドコントロールを行ってい

ます。またこの「入院表」は、病棟運営上でも毎日の予定がわかり、業務分担や勤務人数の調整などにも役立っています。

会議が終わると情報交換の場として、各病棟間で共有することや、安全管理や感染に関する報告や伝達、簡単な出張報告、スタッフ情報などもタイムリーに調整する場としています。

病棟においては看護の視点を中心に、セラピストと共に、個々の患者さんの状態にあったベッドの位置や、付



属物などの環境設定を行い、受け入れ準備を整えます。

今後も患者さんにとって安心して早期の社会復帰のための、最適なリハビリテーション看護が出来るように、多職種と共に、病床コントロールをしていきたいと思えます。

やまさき なるみ

## 近森の "CHIKAMORI" らしさ

初期研修医 行元 志門



福岡県久留米市にある聖マリア病院が主管となって行われた「第5回 VHJ 機構 臨床研修医・指導医交流会」に参加してきました。

この会では、VHJ 機構に加盟している全国の民間病院から選ばれた各病院数名の研修医達が、「僕らがつくる研修病院」というテーマの下で自身の病院のストロングポイントを紹介しました。



近森病院が他の病院に対して誇れることは、「1年目の4月から自身の外来を受け持たせてもらえること」や「当直は基本的に研修医が内科1人、外科1人であるため、1人当たりの救急車受け持ち件数が非常に多いこと」でした。また、研修医によって作られた「研修医マニュアル」も他の病院にはないものでした。

逆に自分達の病院にはない点も多く、感心したりと、凄く有意義な経験となりました。

今回の交流会に参加して、今まで何事も自身の病院基準でしか考えられていなかったことに対して新たな視点が加わったように思います。また全国的に見ても近森病院は、充実した研修生活の送れる病院だと再認識しました。

来年は私達がこの会の主管となり、全国の VHJ 機構所属の民間病院が高

知県に一堂に会します。高知県らしさや近森らしさを出すために職員の皆さんにもご協力していただくことになるかもしれませんが、そのときは優しく対応してくださると幸いです。僕も来年に向けて、県外出身者とバレないようにエセ土佐弁に一層の磨きをかけておきます。 ゆきもと しもん

### ワイン講座 ● 58

#### ぶどう品種を知り、個性を探る その38 ポルトガル篇

#### バガ

ポルトガル特有の土着品種で、ある一人の生産者の挑戦により見出された品種と言っても過言ではありません。バガ種は、バイラダ地方の赤ワインの90%を産する主要品種ですが、多産なため出来上がるワインに注目する消費者は殆どいませんでした。

バガとは「ベリー」の意味で、小粒で厚い果皮のためワインの色合いも濃厚で酸味とタンニンに富んだ重厚な味わいの特徴としています。1980年代に自社のワイナリーを引き継いだルイス・パト氏は徹底した剪定、低収量、醸造方法の改良で、従来のバイラダワインとは異なったアプローチで全く新たなワインを生み出すことに成功しました。一流の生産者の流儀を用い、完熟したぶどうを収穫、発酵や貯蔵にフランス産の新樽を用いるノン・フィルターで瓶詰めなど。

当時周囲の生産者は批判的でしたが、後に世界中のワインガイドや評価が正当性を証明しました。優れたものは、北イタリアのネッピオー口種のイメージに近く、長期熟成によりピノ・ノワール種に似た味わいに変化していくとされています。

鬼田知明 (有限会社鬼田酒店代表)



ヴィーニャ・パロッサノルイス・パト/ポルトガル、バイラダ地方 ● ルイス・パトは正にポルトガルを代表するワイナリーのひとつ。平均樹齢90年の古木から作られるため、深みがありしなやかな舌触り。品種の個性同様、気候風土の特性を引き出すため、単一畑のぶどうだけを使用。パロッサ畑は松やユーカリの木々に囲まれているため、ワインの味わいの中にミンティな風味が感じられます。

### 「華道部」発表会

11月14～17日の4日間、管理棟で職員向け発表会を行いました。ご覧いただきありがとうございました。いけばなに興味のある方は、内線1205山村までご連絡ください。



## |||| 乞！熱烈応援 ||||

### 自分らしく

近森病院救命救急病棟  
看護師長 野瀬 美保



新人看護師として就職し、16年が経とうとしています。沢山の方に助けをもらい、ここまですることができました。まだまだ経験が少なく不安もありますが、自分ができることからしていきたいと思っています。これまでとは違う視点で、看護を提供していきたい。スタッフとともに看護を語り合う時間を大切にしたいと思っています。

のせ みほ

### 感謝の気持ちを忘れず

近森病院救命救急病棟  
看護師主任 和田 由加子



近森病院を一度退職したものの「やっぱり近森で働きたい」と再就職し約3年がたちました。同僚や周りのスタッフに助けをもらいながら、ここまでこれたと感謝しています。少し不安な気持ちもありますが、皆さんにご指導いただきながら自分なりに一生懸命頑張っていきたいと思っています。

わだ ゆかこ

### みんなに支えられて

近森病院 HCU  
看護師主任 井上 麻美



一般病棟から集中病棟に異動し、5年ほど経ちました。大きな壁にぶつかるたび、自信を失くしていたのを救ってくれたのは仲間である同期たちと先輩方であり、いまでもそれはかわりません。まだまだ未熟ですが「患者さんとそのご家族への看護」の気持ちを忘れることなく、これからも頑張りますのでよろしくお願いします。

いのうえ あさみ

### 感謝

近森リハビリテーション病院  
4階病棟西看護師主任 和田 幸恵



入職し、今年で8年目になります。今日まで頑張ることができたのは、今まで関わってきた患者さんやスタッフの皆さんのお蔭だと思っています。これからは主任として皆さんの支えになれるよう、日々精進していきたいと思っています。まだまだ未熟ではありますが、一生懸命頑張ります。

わだ さちえ

## ハッスル研修医

### 自信を身につける



初期研修医 富田 優香

小さい頃からお肉よりお魚派の私にとって、高知は天国のような場所です。大学入学と同時に高知に引っ越して来て7年目の今年、ようやく住民票を取得しました。正式に高知県民になったためか、最近では以前よりもお酒が好きになった気がします。(笑)

さて研修医となり早くも半年が過ぎました。4月は緊張のあまり看護師さんに声を掛けられず病棟へ行ってもUターンしてしまう日々でした。患者さんに「そんな不安な顔をしたらいかんで、自信を持ち！」と言っていたことがあります。

根拠のない自信はただの過信となってしまいますが、自信とは人が賢明に努力を重ねながら生きてきた証だと思います。正しい自信を持つ人はキラキラしていて、とてもかっこいいです。

初期研修を終える頃、相応の自信をしっかりと持った人間になっていられるよう、努力を重ねたいと思います。笑い方おかしいね！としょっちゅう言われてしまう程の大きな笑い声を響かせて(笑)元気に頑張ります！

とみた ゆか

## 糖尿病イベント開催報告

2017年11月17日



糖尿病サポート委員会主催で世界糖尿病イベントにあわせてイベントを開催しました。血糖測定や運動療法指導などを行い、たくさんの方にご参加いただきました。



## 下肢装具全般の基礎知識と 装具の種類について

近森リハビリテーション病院

院長 和田 恵美子



近森リハビリテーション病院ではいろいろな下肢装具を作製しています

が、麻痺に合わせて調整が可能な後方平板付短下肢装具を5年前より導入しています。開発者の一人である京都府立医科大学リハビリテーション医学教室講師である沢田光思郎先生による脳卒中の下肢装具療法の講演会を11月3日

に開催しました。下肢装具全般の基礎知識と装具の種類について大変わかりやすい内容で、集まった医師、理学療法士、義肢装具士から活発な質問がありました。

今後も適切な時期に適切な装具処方を心がけていきます。

装具の作製や修理などご質問のあるかたは木曜日午後に装具外来をおこなっていますので、当院医療相談室にご連絡ください。

わだ えみこ



## 「緩和ケアイベント」を開催

2017年11月7日



## 癒しをあなたに、川柳の表彰も

緩和ケア委員会委員長

近森病院外科部長 田中 洋輔

11月7日に「緩和ケア」を知ってもらうための催しを開催しました。がんだけでなく、心不全や神経難病などによって生じる体や心の辛さを和らげ、有意義な生活を送れるようにすることが「緩和ケア」です。

当日はハンドマッサージや頭皮ケ

ア、ネイル、いのちのスープの提供を行い、「気持ちよかった」、「スッキリした」、という多くの声が聞かれました。

川柳も多く集まり、委員会の方で選考を行い、紙面で表彰させていただきました。

ます。

ありがとうございました。

たなかようすけ



### 優秀作品

闘病中 主夫と仕事を ありがとう

見舞い来て 旦那とデート 嬉しくて

霜降るや 我身の口福に 華そへて

チヨリス

湯山 藍一郎

赤福

## ■ 私の趣味 ■

### 同じ釜の飯を食った仲間

近森リハビリテーション病院

リハビリテーション部理学療法士 岡林 知裕

ボクシングを始めて11年になります。ボクシングは個人競技か、団体競技かと質問すると、前者であると答える方が多いと思います。しかし、私は団体競技だと思っています。

タイトルの言葉は、試合に向けて僕自身の専属トレーナーとして指導して下さった、東京の名門ジムでプロとして活躍されていた清水トレーナーの言葉です。社会人選手権に向けて過酷なトレーニングを行いましたが、その結果、運だけで兵庫県代表となり、全国社会人選手権第3位となり表彰されました。そこまでの経過の中で、苦楽を共にした清水プロ含め他のトレーナーの方々、スパーリング相手をしてくれた会員、

僕自身が指導をしなくて良いように、練習生の指導をサポートしてくれた仲間、練習生一同となりカンパを集めてくれたり、また、当日には仕事を都合付けて応援に来てくれた方もいました。全てが感動であり、感謝の一言、そして、仲間があつてこそこのボクシングだと感じました。現在はトレーナーとして指導しており、

昨年は運動音痴であった女性2人を検定受験者全体のうち1位、2位で合格させることが出来、女性専属トレーナーとしてジムで紹介されています。

今後も、自分の経験を活かし、ボクシングの楽しさを多くの会員に伝えていきたいです。

おかばやし ともひろ

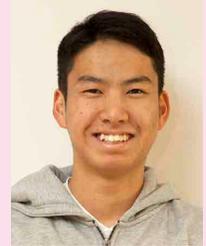


## ● 近森看護学校通信 21 ●

### 学生課外活動 学校初のクラブ活動 “野球部”

野球部部長

2年生 松本 大河



当校のクラブ活動はゼロからのスタートであり、発足時は自分たちで昔使っていた道具を持ち合い、練習を行ってきました。9月に入り、念願の野球道具・ユニホームが揃い、初の対外試合を行いました。結果は惜しくも2-2の引き分けでした。

現在、選手11名・マネージャー8名で野球経験者ではないというメン

バーも多く在籍していますが、みんなで力を合わせて活動しています。

今こうして活動できているのは、病院関係者ならびに学校関係者の支えがあったという感謝の気持ちを常に持ち、野球を通して人として大きく成長していきたいと思えます。 まつもと たいが



## 職員旅行

右はマルタ・ヴァレッタの地中海クルーズ船。右中はオペラハウスの近くで。右下は古都ヴァレッタでの城壁から

左は屋久島クルーズで、左下は屋久島の千年杉の前で



# VHJ 研究会第28回職員交流研修会に参加して

近森病院 地域医療連携センター看護師長 山本 詩帆



今年は大阪の北摂総合病院が幹事病院となり、27施設約300人の参加がありました。当院は四つの分科会に参加しましたので、参加者からの言葉を借り報告致します。

「経営戦略・人事労務管理統合」では、人事労務管理が病院経営にとって重要課題であることが話し合われました。行政解釈や他院の取り組み状況など、今回情報収集できたことを参考に、医師の働き方改革を含め、当院でも本格的に取り組む必要があると考えます。

「看護管理」では、2018年度の診療・介護報酬同時改定を見据えたケアへの評価から考える取り組みについて話し合われ、当院からは萩原博師長が「認知症ケア加算（1）算定にかかる当院での取り組みと課題」というテーマで発表しました。現場のケアを広げるために患者さんやご家族の生活や思いを知ることの重要性、数値の比較あるいはナラティブでプロセスを評価するなど評価の見える化の必要性について話し合いました。

「地域連携」では、入退院システムの見直しや、医療と介護の連携に関する取り組みを重ねながら、質の向上に取り組むことの重要性を確認しました。

「業務管理」では、チーム医療は、安全で質の高い医療提供のために不可欠だが、各専門職間の知識や技量の差や用語が未整理なま

ま使用されている、といった課題が挙げられました。互いの専門性の理解とコミュニケーションが必要であり、患者中心に考え調整するための活動が報告されました。

各施設の方々の積極的な取り組みを聞くことができ、良い刺激を得ることができました。 やまもと しほ



2018年度 近森会グループ 看護職員採用試験

私たちと一緒に看護しませんか？

2018年 1/13

CHIKAMORI HEALTH CARE GROUP

Uターン・Iターン就職の方、大歓迎

## お弁当拝見 56 毎日のお弁当



有限会社石原産業 営業 佐藤泰寛さん



私のお弁当は毎朝妻が早起きをして自分のお弁当と一緒に作ってもらっています。

日によっては昼食が遅くなってしまうこともありますので、お弁当袋に保冷材を入れ、夏場でも大丈夫なようにしてくれています。

健康面も気にしてくれていて、偏ったおかずにならないよう、夕食のときに翌日のお弁当のことも考えながら作ってくれています。

育児や家事に追われながらも、毎日のようにお弁当を作ってくれてい

る妻には、感謝しています。

さとう やすひろ

本館受付前。水槽案内 僕らはみんな生きている 13



## オトシクルス



オトシクルスは、水槽のガラス壁によくつく茶苔を取る能力の高さが抜群のナマズの仲間。

この魚がいるだけで水槽のガラス面がきれいになるが、しばらくすると苔が少なくなり、肝心の魚が餓死するケースもあるので注意が必要。見た目のかわいらしさとコミカルな泳ぎ方をするので、見ているだけでも飽きがこない人気者。 編集室

## ハロウィンパーティー開催！ ……実は、パス大会です。

クリニカルパス委員会副委員長  
近森病院消化器内科部長 高松 正宏



10月30日、第35回近森病院クリニカルパス大会を開催いたしました。今回は上部EMR（内視鏡的粘膜切除術）・ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）改定についての発表です。

医師、病棟看護師、内視鏡看護師、内視鏡技師、薬剤師、管理栄養士、医事課からそれぞれ発表を行いました。

当院は業種間の垣根の低さがウリで、互いに協力し合いチーム医療を実

践している内容となりました。これからもより良いパスにするよう努力を続けていきます！

ちょうどハロウィンということで、仮装して大会を盛り上げ(?)ました。

ガチの仮装に他院から来られた方はちょっとビックリされていましたが、中身は真面目なパス大会でした。

たかまつ まさひろ



## リレー エッセイ

### わが家の癒し

近森病院臨床検査部 臨床検査技師 毛利 美穂



わが家に誕生した娘も2歳2カ月になりました。育休後は「そると」に通っています。通い始めた当初は、入室から毎日涙の日々でしたが、今ではすっかり慣れてテラスで車に乗ったり、すべり台が大好きで、元気いっぱい遊んでいるようです。

今年度から連絡帳の代わりに「キッズリー」のアプリが導入され、保育室での様子が写真で見られるようになりました。お友達とニコニコしている様子や、手を繋いで仲良く歩いたり微笑ましい場面があったりと、



毎日何をして遊んだのかな？と見るのが楽しみの一つです。2歳前後くらいになると何でも「いや！」という時期があり反抗期とも呼ばれますが、何でも自分で「やってみよう！」という自我が育っている表れの様です。娘も自分のしたいことを主張しようとしますが、まだ言葉が片言な為、アピールはもっぱら指さし。何が欲しいのか、何をしたいのか頭を悩ます時もありますが、不思議なことに少しずつ分かるようになってきました。

成長と共に遊び方も変わり、今はままごと、絵本、パズルに夢中です。休みの日に公園へ行きたい時は玄関

を指さしてお外へ行きたいアピール。親子のコミュニケーションとして一緒に遊んだり、歌を歌ったりを心がけています。何度も何度も同じことを繰り返し疲れてくることもありますが、できなかったことが突然できるようになったりすることに驚かされたり、喜びもあつたりします。

働きながらの育児は大変なこともあります。子供の笑顔の癒しを励みにイヤイヤ期を乗り越えて長い目で見守っていきたくです。

もうり みほ



## ニューフェイス

①所属②出身地  
③最終出身校  
④家族や趣味のこと、自己アピールなど

日時：2018年7月6日(金)、7日(土)

会場：高知市文化プラザかるぽーと

演題募集期間：2017年12月1日  
～2018年3月20日

日本医療情報学会看護学術大会が2018年7月6、7日に高知県にて開催されることになりました。病院情報システム導入施設の看護師のみならず、地域で活躍される看護職者、看護教育者、医療情報を扱う多職種や関連企業の方々など、たくさんの方々のご参加をお待ちしております。

詳しくは  
HPへ!



第19回  
日本医療情報学会  
看護学術大会



## 人の動き

敬称略

## おめでとう

### 図書室便り 2017年10月受入分

#### 《別冊・増刊号》

- 別冊整形外科 No.72 高齢者(75歳以上)の運動器変性疾患に対する治療 / 竹下克志 (編)
- 臨床栄養別冊栄養指導・管理のためのスキルアップシリーズ Vo.7 糖尿病の最新食事療法のなぜに答える 基礎編 / 本田佳子 (他編)
- 精神科治療学第32巻増刊号高齢者のための精神科医療 / 「精神科治療学」編集委員会 (編)
- HEAR Tnursing 2017年秋季増刊オールカラー完全版ナースのための補助循環 / 山名比呂美 (監)
- 臨床と微生物 44巻増刊号初心者でもこれだけは習得しておきたい微生物検査の基礎技術 / 牛島廣治 (編集主幹)

### 2017年10月の診療数 システム管理室

#### 近森会グループ

|        |         |
|--------|---------|
| 外来患者数  | 19,078人 |
| 新入院患者数 | 1,070人  |
| 退院患者数  | 1,035人  |

#### 近森病院(急性期)

|              |         |
|--------------|---------|
| 平均在院日数       | 14.26日  |
| 地域医療支援病院紹介率  | 65.88%  |
| 地域医療支援病院逆紹介率 | 165.72% |
| 救急車搬入件数      | 613件    |
| うち入院件数       | 297件    |
| 手術件数         | 483件    |
| うち手術室実施      | 323件    |
| うち全身麻酔件数     | 187件    |

● 2017年10月 県外出張件数 ●  
件数 53件 延べ人数 110人

## 編集室通信

今年も師走12月を迎え残りわずか、1年が益々早く過ぎていく気がします。

今年を振り返ると1月のアメリカのトランプ大統領就任から北朝鮮のミサイル発射、テロや夏の猛暑、秋の長雨と台風そして衆議院選挙と落ち着かない不安なことが多い1年でした。来年は安定して平和で穏やかな年になって欲しいですね。 ○和

# 手技の前進を励みとして

## 「在るべき自分の姿」を求め

「とにかく真面目」。「いつも一所懸命頑張っている」。こんな風な言葉に周りのスタッフの印象は集約されるようだ。田井先生には、真面目とか不真面目とか、そういった発想自体がそもそも窺えない。目の前にある「やるべきことをやるだけ」だから、「不真面目になりようがない」のである。

小学高学年で、親の勧めもあり、進学校に進むことを決めたとき。「真面目に、与えられたことをコツコツこなす印象」の高知学芸中学校の校風が自分に向いていると思ったという。

しかも、もう一度入り直すとしても「やはり学芸に入りたい」そうで、真面目で一所懸命、「典型的な学芸ボーイっばい」といえるのではないだろうか。

この発想が根底にある。だから、「できなかったことができるようになる」とか、「分からなかったことが分かるようになる」ことは素直に嬉しかったし、それが喜びにも繋がり、将来の職業を考えたときも、その道筋に「学校の先生」が浮かんだという。

もっとも、それはあくまで漠然とした希望であり、「本気で将来をどうするのか」と考えたとき、医学部を目指すことに決めた。

できなかったことができるようになるという、「在るべき自分の姿」を描けたためだろう。



## 心臓血管外科の魅力

医学部で、どの科を専門とするか。すでに2回生のときには心臓血管外科を希望していた。自分のタイプが内科より外科系だと思ったことと、生命の中心である心臓が対象で、しかも「機能的に元より良くなる可能性が高い科であることに魅力を感じた」のだという。

身体をめぐる全ての器官を学ぶ際にも、いつも将来の専門は心臓血管外科という発想があり、「そういう意味では遠回りせず今に至ったと思える」と、チラッと控え目な自負心も覗かせる。

## 期待に応えたい

初期研修で近森病院を選んだのは、圧倒的な症例数の多さゆえで、実際、研修が始まると、「入江先生のパワフルな勢いに圧倒された」し、スタッフの皆さんの発する緊張感のなかのイキイキ感が伝わり、「勉強できる」と確信したという。

近森病院で丸3年勤めたあと、姫路赤十字病院での外科研修の機会が与えられた。心臓血管外科の立ち上げもあり、「貴重な機会だから行ってこい」と、入江部長(当時)に背中を押された。

「期待してもらえたら、それに応えたい」。田井先生はこの言葉を何度も口にする。主体的に自分で道を開拓していくのは得意ではないそうだが、段階を追い課題を与えられ克服できれば、やり甲斐に通じ、「おかげで力がついてきていると思えるのが嬉しい」と、満足げにニコリ。その笑顔はホ



▲チームカンファは総勢50人で  
◀朝の心外カンファレンスで患者さんの容態を説明中

ントに嬉しそうだ。

## 「今度のもっといい賞を狙います」

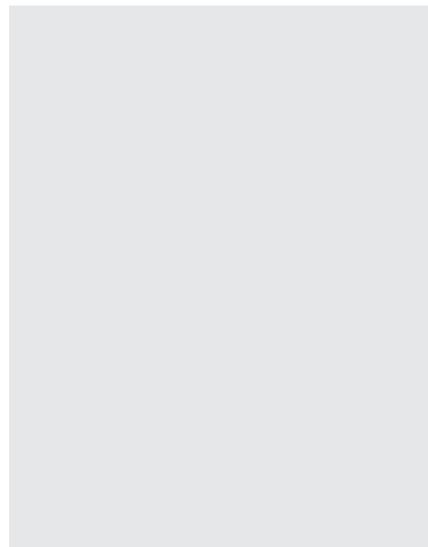
口を開くと仕事の話ばかり。これでは息が詰まるのでは……。だが、その辺りはもちろん大丈夫。「家ではその分、しっかり力を抜いてふにゃっとしてますから(笑)」。

オンとオフの切り替えを意識的に行なうというよりも、「PHSで呼ばれると、頭がオンに切り替わります!」という自動思考になっているのだろう。

こうしてまだまだ気を抜けない、精いっぱい、力いっぱい!の日々が続く。

仕事机に向かえば、専門学会の発表で「優秀賞」に輝くなど、周りの期待に必死で応える田井先生。

先ごろの副賞の賞金は、スタッフの皆さんへのお土産で全部遣ってしまった。で、「今度のもっといい賞を狙って、もっといいお土産をいっぱい買ってきます!」と、入江博之副院長にはしっかり約束している(笑)のどかか。



シリーズ

# 「日本の医療はすべて高齢者医療」 —臨床医が知っておくべき問題点—

【第1回】「Overview：日常診療のどこに問題があるのか」（10月26日（木）開催）

社会医療法人近森会学術担当理事 土居 義典



高齢患者の診療では、臨床医は自分の専門性だけでは問題解決できません。多臓器疾患、フレイル、認知症や

軽度認知機能低下（MCI）など的高齢患者に特有の病態の把握や、その臨床的意味の理解、潜在する癌や動脈硬化

病変をいつも考えて診療に当たる姿勢が大切です。今回の企画は、高齢患者

の背景にある多くの病態を把握した上で、目の前にある問題の解決を行うアプローチを学ぶ絶好の機会です。我が国の第一人者の先生方の知識・経験に学ぶこのシリーズ企画に是非多くの医師・医療スタッフが参加されることを期待します。

どい よしのり



【第2回】 11月2日（木）講師：東北大学 加齢医学研究所・老年医学分野 教授 荒井啓行先生  
（開催済み）「認知症を知り認知症対策を考える」

終了

【第3回】 12月14日（木）講師：国立長寿医療センター 副院長 荒井秀典先生  
「フレイルの意義を考える～健康長寿のために医療専門職が実践すべきことは？～」

【第4回】 1月11日（木）講師：東京大学大学院 加齢医学教授 秋下 雅弘先生  
「これからの高齢者医療：多病とポリファーマシーへの配慮」

【第5回】 2月9日（金）講師：名古屋大学大学院 地域在宅医療学・老年科学 教授 葛谷雅文先生  
「超高齢社会におけるサルコペニア・フレイルの重要性：特に栄養に関する話題を中心に」

## 出張報告

2017年10月29日～11月2日

### デンバーで研究発表してきました!!

近森病院循環器内科  
部長 西田 幸司



アメリカ最大の心臓カテーテル治療の学会であるTCT2017が10月29日から11月2日までの5日間の行程でアメリカ・デンバーにおいて開催されました。当院も参加している多施設共同研究のデータ（約1800症例）から冠動脈治療の成績を2演題発表する機

会をいただき応援団の後輩・舟木先生と共に参加させていただきました。

TCTは29年前から始まった学会で参加者は世界中から集まり1万人を超える規模になります。今年はカテーテル治療が始まって40周年を迎える記念すべき年であり、今までの歴史を紐解く発表や資料室が設けられておりました。先人達のたゆまない努力のおかげで凄まじい進歩を遂げ、現在も患者さんに素晴らしい貢献ができるカテーテル治療に関らせていただいていることを再確認し胸が熱くなりました。

今回発表させていただいた様な臨床研究は手間も時間も大変かかります

が“ほんの小さな、小さな一歩”であっても、この積み重ねで医療は進歩していくものと信じています。ただ、残念ながら発表のみでは意義は少なく、論文にしなければ「カテーテル治療の進歩への貢献」という意味では少しも達成されません。

またまた辛く孤独な論文作成生活を送っていますが、共同研究に協力いただいている各施設の先生や患者さん、なによりこの分野への貢献のために論文化をやり遂げたいと思います。それがいつか患者さんへ必ず還元されると思うからです。

にしだ こうじ